

(メモ)

「大使の一日、大使館の仕事」

1(1) 大使館の仕事

○外交業務

外交政策立案、外国政府との交渉、条約締結
国際連合・国際機関への参加協力
情報収集・分析
広報・日本文化紹介
邦人保護、旅券・査証の発給

○在外公館数(2017年1月現在)

大使館149、公使館0、総領事館63、兼轄駐在官事務所2
政府代表部：国連代表部、EU代表部など9

1(2) 在外公館のスタッフ

○大使館

特命全権大使 (Ambassador):公館長、全権代表
公使 (Minister):次席館員
参事官 (Councillor):公使がない場合次席館員
書記官 (Secretary):一、二、三等。政務、経済、広報文化関係外交事務に従事。
理事官 (Attache):一、二、三等。官房班、領事班において外交事務に従事。
防衛駐在官 (Defence Attache):防衛・軍事に関する事務に従事。全員が陸海空自衛隊から出向の幹部職員。
医務官 (Medical Attache):医務に関する事務に従事。
在外公館警備対策官:自衛官、警察官、海上保安官などから出向。
専門調査員、派遣員等：特定事項の調査等
現地採用スタッフ:秘書、各班、運転手、公邸メイドなどに配属。
公邸料理人：公館長との個人契約で帯同。

○外交特権(外交関係に関するウィーン条約)

不可侵権：公館、公邸、輸送手段、通信、国旗掲揚、外交官身体、住居
公館非課税権、公租公課等免除

2(1) 大使の一日(着任まで)

○特命全権大使の任命

国家公務員法で定める特別職。日本国籍を有する者でなければならない。
任免は外務大臣の申し出により内閣がこれを行い、天皇がこれを認証する。

○訓達

赴任に先立ち各大使に対し政府より特命が訓達。二国間交流推進、政治情勢フォローなど。

○アグレマン(Agrement)の取得(ウィーン条約)

赴任に先立ち、外交官待遇を受けることにつき相手国の同意(アグレマン)を得る。相手国は自国にとって相応しくない人物と判断すれば拒否できる。

○信任状捧呈

赴任に際し、派遣元の元首から託された信任状を相手国元首に大使から直接手渡す。信任状の捧呈の後はいはじめて任国での大使としての活動が許される。

2(2) 大使の一日

○式典、行事への参加

任国の独立記念日、元首就任披露宴などの国家行事、各国大使館主催ナショナルデイ・レセプション臨席。あらゆる機会を利用し、情報収集、広報活動を。

○外交交渉

大統領、外務大臣、同次官等との二国間及び国際場裏の諸問題につき政務協議。安全保障、領土問題など。
また、経済協力等でのテーマに応じ、関係閣僚及び議員等と協議及び協力要請。及び友好議連との連絡、調整。

○大使館行事等の主催

天皇誕生日レセプション、新年会、日本語スピーチコンテスト等文化行事の主催。
震災等に際しての報告説明会、震災被害者追悼行事等の開催。

○現地日系社会との連携、協力

日系企業関係団体等との定期会合、情報交換。日本人学校運営への協力及び入学式、卒業式等への臨席。

○その他

政府要人、議員等要人來訪への対応、地方出張など。

3 (1) 東欧を知る・ 欧州地政学と東欧

○ヨーロッパ

海洋、河川、山脈が自然の要害。砂漠はなく、凍った荒地はごく一部。地震、火山噴火、洪水など自然災害もまれ。

肥沃な土地、大規模農業に適した降水量。

古代ギリシャ文明、市民革命、産業革命、啓蒙運動発祥の地、豊富な歴史文化遺。

○西欧

北ヨーロッパ平野は広大肥沃な回廊、川は天然の水路。

余剰食糧、人口増加、交易の発展、工業国誕生。

○南欧

ピレネー山脈、アルプス山脈が障壁。

スペイン、北アフリカ市場に依存

○ロシア

北ヨーロッパ平野は安全保障上の要衝。

不凍港獲得が悲願ーウクライナ侵攻、クリミア併合。

○東欧・ バルカン半島諸国

中央ヨーロッパ平原、カルパチア山脈、半島山岳の複雑な地形を抱える。

東西勢力が通過する戦略拠点、防衛拠点。

* H.マッキンダー (現代地政学の開祖 (1861-1942))

「ヨーロッパはユーラシア大陸の半島。その付け根の東欧が不安定になると欧州半島全体に影響する。東欧を制する者が世界を制す。」

3 (2) 東欧を知る・ ロシアの軌

○ソ連崩壊とNATOの拡大

1991年ソ連崩壊により独立した15の共和国のうち、東欧7国、バルト3国はNATO、EUに加盟。

* NATOは1949年創設の西側軍事同盟。対抗してソ連が結成したワルシャワ機構は1989年ベルリンの壁崩壊で消滅。

○ロシアの対東欧戦略：影響力の維持確保

2014年クリミア半島占領（20世紀半ばまで2世紀に亘りロシア領、住民の60%はロシア人）→セバストポリ軍港確保→ボスポラス海峡から地中海へのルート。

カルパチア山脈南東部は平原はロシアにとって黒海管理上重要拠点。→モルドバのトランスにストリアにロシア人入植を進め、また2000の兵力を常駐させている。

○ロシアの武器：天然ガスと石油

ロシアは第2位の天然ガス生産国→欧州で消費されるガス、石油の25%がロシア産→政治的圧力に利用。

* 周辺国のロシアエネルギー依存率；ラトビア、スロバキア、フィンランド、エストニア（100%依存）/チェコ、ブルガリア、リトアニア（80%）/ギリシャ、オーストリア、ハンガリー（60%）/ドイツ（凡そ50%）

3(3) 東欧を知る・EU加盟

○EU

歴史的に対立関係にあった仏独が抱擁し合い、独を西欧各国との協力関係に組み込む仕組みとして1993年発足。1992年ユーロ導入。加盟28か国。

自由、民主主義、平等、法の支配、マイノリティの権利、人権の尊重が基本的価値。経済統合（関税、農業通商政策、資本の移動、通貨統合）、政治統合（外交、安全保障政策）、警察・司法協力を推進。

○東欧諸国の加盟とその意義

2004年加盟：ハンガリー、スロベニア、チェコ、ポーランド

2007年加盟：ルーマニア、ブルガリア

2013年加盟：クロアチア

①アイデンティティーの確立：自国の民族国家はヨーロッパにあるとの認識。

②社会、経済発展のため：資本主義への移行は、EU加盟基準を達成するプロセスの中で実現。

③政治的動機：民族紛争・対立を解決し、ヨーロッパ全体の安定につながる。

→東欧諸国にとって、加盟は欠かせない政策目標

○EUの新たな挑戦

経済問題：2009年金融危機以来の南北格差。

移民、テロ：イスラム教徒の増加、2015年パリでのISにテロによる右翼政党の台頭と非寛容の拡大。

ロシアの圧力：ウクライナ、クリミア、トランスニストリア（モルドバ）及びバルト3国への影響力強化。→1枚岩であるはずのヨーロッパに亀裂の危機

○日本の協力

基本的価値を共有する日本→国際場裏における安全保障、テロ対策、気候変動問題等での連携、協力。経済連携、人的交流等による相互理解・協力関係の推進

4 ルーマニアでの仕事

○ルーマニア

古代：ダキア人、ローマ帝国の攻撃を受け敗北、帝国の領土に

中世：ワラヒア、モルダヴィア、トランシルヴァニアの3公国（オスマントルコやハプスブルグ帝国の支配下）

1878年露土戦争に乗じてオスマントルコから独立、ルーマニア王国

1947年共産化、人民共和国・1989年革命、チャウセスク政権崩壊、民主化。

○ルーマニアの重要性

EUでの人口7番目の中大国、EU議会での発言権（評議員数）第7位。

EU東端に位置する地政学的重要性。

EU、NATO、黒海経済協力機構等主要加盟国・欧州安全保障協力機構メンバーとして、経済、環境、人権、軍事など包括的活動を推進。

○日本との関係

外交関係樹立100年（1921~2年相互に大使館開設）

日本からの進出企業170社・ルーマニアにおける日本文化社会への大きな関心、日本語学習数2000。

ルーマニアの民主化、市場経済化への経済協力による様々な日本の支援。

○大使（2009~2012年在勤）が取り組んだ仕事

- ① バセスク大統領（当時）の日本への招待。2010年3月に実現。天皇皇后両陛下への接見、鳩山首相（当時）との首脳会談で両国の関係強化を確認。

- ② 「ブカレスト国際航空アクセス鉄道建設計画」への円借款実現。空港からブカレスト都心部への安全確実な交通手段確保のため。
- ③ 「ブカレスト大学日本研究センター」設立支援など、日本との学術、教育交流の推進。

(2017.10.20 雨宮夏雄)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD



UNITED NATIONS ANNOUNCES YOUNG LEADERS FOR THE SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

New York, September 19, 2016 – The UN Secretary-General's Envoy on Youth, Ahmad Alhendawi, today unveiled the inaugural class of Young Leaders for the Sustainable Development Goals (SDGs) at the Social Good Summit in New York.

The 17 Young Leaders have been recognized for their leadership and contribution to the achievement of the 2030 Agenda for Sustainable Development, which includes a set of 17 Goals to end poverty, fight inequality and injustice, and tackle climate change by 2030.

“Today I am pleased to join in welcoming the inaugural class of Young Leaders for the Sustainable Development Goals,” said UN Secretary-General Ban Ki-moon. “These 17 young change-makers are a testament to the ingenuity of youth and I congratulate them for their exceptional leadership and demonstrated commitment to the Sustainable Development Goals.”

The flagship initiative of the Office of the Secretary-General's Envoy on Youth comes against a backdrop of increasing efforts by the UN to engage young people in its efforts to achieve the

SDGs. Selected from over 18,000 nominations from 186 different countries, the Young Leaders for the SDGs will support efforts to engage young people in the realization of the SDGs and will have opportunities to engage in UN and partner-led projects. The initiative will also contribute to a brain trust of young leaders supporting initiatives related to the SDGs.

Speaking at the event, the Youth Envoy, Ahmad Alhendawi, said: “We are proud to announce this group of young global citizens who are already transforming their communities. At the same time, the selection process was an important reminder of the great potential and talent of so many young people around the world, who are making immense contributions to peace, development and the achievement of the Sustainable Development Goals.”

The Young Leaders for the SDGs will be at the United Nations in New York for the opening of the 71st Session of the General Assembly, where they are scheduled to take part in a series of high-level meetings and events.



About the initiative: The Young Leaders Initiative is powered by the Office of the UN Secretary-General's Envoy on Youth and is part of the Global Youth Partnership for Sustainable Development Goals, launched in 2015 and housed in the Envoy's Office. From food to fashion to micro-finance, the Young Leaders for the SDGs, aged 19-30 years old, come from many different backgrounds, represent every region in the world and inspire all of us to achieve the goals. The Young Leaders for the SDGs are recognized for their leadership and contribution to a more sustainable world. They will come together as a community to support efforts to engage young people in the realization of the SDGs both through strategic opportunities with the UN and through their existing initiatives, platforms and networks.

About the Selection Process: The Young Leaders for the SDGs were selected through a multi-step rigorous process during which they were also evaluated by a high-level Selection Committee comprised of representatives from governments, the United Nations, civil society and the private sector.

MEET THE 2016 CLASS OF THE YOUNG LEADERS FOR THE SDGs





国連、持続可能な開発目標（SDGs）のためのヤングリーダーズを発表

プレスリリース 16-084-J 2016年09月20日



国連のアハマド・アルヘンダウィ・ユース担当事務総長特使は2016年9月19日、ニューヨークのソーシャル・グッド・サミットで、第1期生となる「持続可能な開発目標（SDGs）のための国連ヤングリーダーズ」の顔ぶれを発表しました。

17人のヤングリーダーたちは、2030年までに貧困に終止符を打ち、不平等や不正と闘い、気候変動に取り組むための17の目標を盛り込んだ「持続可能な開発のための2030アジェンダ」達成に向けたリーダーシップと貢献を評価されました。

潘基文（パン・ギムン）国連事務総長は、「きょう私は、SDGsのための国連ヤングリーダーズの第1期生を歓迎する場に参加でき、嬉しく思います。これら17人の若き変革指導者は、若者の創意工夫の能力を立証しています。私は17人の並外れたリーダーシップと、SDGs実現に向けた断固たる決意を祝福したいと思います」と述べました。

ユース担当事務総長特使によるこの最重要イニシアティブは、国連がSDGsの達成に向け、若者の巻き込みを図る取り組みを活発化させる中で実施されています。186カ国の1万8,000人を超える候補から選ばれたSDGsのための国連ヤングリーダーズは、SDGs実現に向けた若者の参加を募る取り組みを支援するとともに、国連やパートナーが主導するプロジェクトにも関与する機会を与えられます。このイニシアティブは、SDGs関連の取り組みを支援するヤングリーダーからなる顧問団の結成にも貢献することになっています。

イベントに出席したアハマド・アルヘンダウィ・ユース担当特使は、「私たちは、それぞれのコミュニティの姿をすでに変えつつあるこの若きグローバル市民グループの顔ぶれを発表でき、誇りに思います。同時に、今回の選考プロセスは、全世界で平和や開発、そしてSDGsの達成に大きく貢献している数多くの若者の素晴らしいポテンシャルと才能を改めて気づかせてくれる、重要な機会にもなりました」と述べています。

SDGsのための国連ヤングリーダーズは、ニューヨークの国連本部を訪れ、第71回国連総会オープニングに出席し、一連のハイレベル会合やイベントにも参加することになっています。

イニシアティブについて：

ヤングリーダーズ・イニシアティブは、ユース担当国連事務総長特使室が「持続可能な開発目標（SDGs）のためのグローバル・ユース・パートナーシップ」の一環として進めています。このパートナーシップは2015年に発足し、同特使室が運営を担当するものです。SDGsのための国連ヤングリーダーズは、食料からファッション、さらにはマイクロファイナンスに至るまで、多種多様な分野で活動する19歳から30歳の若者で、世界の各地域を代表し、目標の達成に向けて私たち全員を鼓舞する役割を果たします。SDGsのための国連ヤングリーダーズは、より持続可能な世界に向けたそのリーダーシップと貢献を評価され、選出されました。ヤングリーダーズはコミュニティを形成し、国連との戦略的連携の機会と各人の既存のイニシアティブやプラットフォーム、ネットワークの両方を通じ、SDGs実現に向けた若者の関与を促す取り組みを支援することになっています。

選考プロセスについて：

SDGsのための国連ヤングリーダーズは、何段階もの厳正なプロセスを経て選出されました。この選考プロセスでは、各国政府や国連、市民社会、民間セクターの代表で構成されるハイレベル選考委員会による評価も行われています。

ユース担当事務総長特使室について：

国連事務総長は2013年、国連史上最年少の高官として、アハマド・アルヘンダウィ氏を初のユース担当特使に任命しました。アルヘンダウィ特使には、青少年育成に関与する国連の取り組みを調和させ、若者のニーズに対する国連の対応を強化し、若者の開発ニーズと権利を擁護するとともに、国連の活動を若者にとって身近なものにする

という任務が与えられています。ユース担当特使は、若者に関連する課題について、事務総長の顧問と代表を務めます。

持続可能な開発目標（SDGs）について：

2015年9月の歴史的な国連サミットで世界のリーダーが採択した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に盛り込まれた17項目のSDGsは、2016年1月1日をもって正式に発効しました。各国は今後15年間、すべての人に普遍的に適用されるこれら新たな目標の達成に向け、地球を守りつつ豊かさを追求するための取り組みを結集していくこととなります。

2016年度SDGsのための国連ヤングリーダーズの顔ぶれは[こちら](#) □ でご覧になれます。

Trisha Shetty (India); Anthony Ford-Shubrook (the United Kingdom); Rita Kimani (Kenya); Rainier Mallol (the Dominican Republic); Edda Hamar (Iceland/Australia); Vincent Loka (Indonesia); Samar Samir Mezghanni (Tunisia/Iraq); Lutfi Fadil Lokman (Malaysia); Carolina Medina (Colombia); Jake Horowitz (the United States); Shougat Nazbin Khan (Bangladesh); Samuel Malinga (Uganda); Safaath Ahmed Zahir (the Republic of Maldives); Ankit Kawatra (India); Nikki Fraser (Canada); Karan Jerath (the United States); and Tere Gonzalez Garcia (Mexico)

*取材許可またはさらに詳しい情報については、下記にお問い合わせください。

Ramy Srour | Communications Adviser | Office of the Secretary-General's Envoy on Youth

電話：+1 212 963 4204

メールアドレス：srourr@un.org

Devi Palanivelu | Department of Public Information

電話：+1 212 963 1104

メールアドレス：palanivelu@un.org

Twitter: @UNYouthEnvoy

Facebook: [facebook.com/UNYouthEnvoy](https://www.facebook.com/UNYouthEnvoy) □

Instagram: @unyouthenvoy

ウェブサイト: www.un.org/youthenvoy □

* * * * *

Copyright © UNIC, All Rights Reserved.